

展覧会について

京焼・清水焼の絵付け師であった故 河野仁 (1932-2019) の遺作展。

テーマは『待春』。

2023年2月、3月開催。

展覧会コンセプト

春の訪れを期待する気持ちを主軸に企画しています。

会場について

河野仁の工房であった東山区の長屋を改装し、建物の2Fを展示会場としています。

色絵という技法

今回展示されている器は、色絵（過去、上絵と呼ばれていた技法ですが、現在は色絵と呼ばれています）という技法で描かれています。器が出来上がるまでの流れは、素焼きに上薬（釉薬）をかけて、焼いたものに絵付けをするのが色絵付け。色絵付けをした後、窯に入れ、760度程で焼く。（金など金属で絵付けを施した場合には、もう少し低温で焼く）

補足

素焼きについて

土を成形し、窯に入れ、750～950度程で焼いたもの。

色絵の具について

主に「顔料」と呼ばれる鉱物（金属）系の個体粉末と、定着や光沢のために必要なガラス成分が含まれています。

展覧会企画、展覧会のはがきデザイン：たにぐちあゆこ

作品提供、企画サポート：谷口えり子